

衆院選決戦勝利へ!

2014年11月20日
No.247

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

改憲・戦争阻止! 安倍打倒! 鈴木たつお弁護士を国会へ!

全国学友へ12/2~14衆院選(東京8区)への決起を訴える

全学連委員長・斎藤郁真 / 全学連書記長・坂野陽平

★風雲急を告げている。待ちに待った、胸躍る大激動情勢だ。腐りきった資本主義にとどめを刺し、安倍政権を歴史のくずかごに叩き込み、労働者・学生が社会の主人公になる時だ。安倍は11月18日に会見し、21日にも衆院を解散し「12月2日公示-14日投票」の日程で総選挙を行うことを明らかにした。全学連は来たる衆院選において、東京8区(杉並区)で、鈴木たつお弁護士(法大弾圧弁護団長、14年東京都知事選候補)を全面的に支持して闘う。全国の学友は万難を排して杉並の地に駆けつけ、鈴木さんとともに闘おう!

①安倍政権と新自由主義は大破産した

第一に、日帝・安倍政権は政治的・経済的・軍事的、そして階級的にボロボロになって打倒されたということだ。「7~9月期のGDP速報値マイナス1.6%」を見るまでもなく、アベノミクスは破産している。消費税10%引き上げなど問題もならない。16日の沖縄県知事選で、安倍の推した仲井真は大惨敗した。秘密保護法への憤激は高まっている。労働者民衆の怒りは地に満ち、安倍は暴動・内乱そして革命の恐怖にうちふるえて、破れかぶれの延命策=解散・総選挙に突き進んだ。



「法大暴処法無罪獲得祝勝会」で挨拶する鈴木たつお弁護士(今年3月18日)

②2014年の労働者・学生の闘いの前進

第二に、「10・21国際反戦デー闘争→11・2全国労働者総決起集会」を頂点とする、階級的労働運動と戦闘的學生運動の着実な前進が、安倍政権を追いつめ崩壊に追い込んだということだ。自らの闘いが切り開いてきた地平を固く確信しよう。

③「生きさせろ!」の怒りで安倍たおせ

第三に、来たる衆院選の最大の焦点は「安倍たおせ!」のただ一点であり、われわれは東京8区(杉並区)において鈴木たつおさんを押し立てて、石原のぶてる(自民党・前環境相)の打倒に挑戦するということだ。「金目」発言の石原をぶっ飛ばし、青年・学生の革命的潮流を杉並に鮮烈に登場させよう。

④京大決戦突破口に学生運動の爆発へ

第四に、「11・4京大公安スパイ摘発事件」の衝撃は全社会を揺さぶり、11・12緊急抗議集会の高揚も経て、全学連と京大学生運動は「台風の目」となっているということだ。京大攻防は日帝・安倍の心臓部を射抜く闘いへ発展している。京大決戦と衆院選決戦を一体的・相乗的に爆発させよう。

⑤東北大自治会執行部選挙の超重要性

第五に、11・20東北大集会の勝利の上に行われる「東北大学学生自治会執行部全学選挙(11月末)」は、「衆院選決戦の前哨戦」として東北大生の怒りを安倍に叩きつける、決定的な意味を持っているということだ。京大決戦の炎を全国へ! 改憲・戦争・「教育の民営化」と闘う学生自治会をつくろう!

⑥法大闘争の最先頭に立つ鈴木弁護士

第六に、鈴木たつおさんこそ、法大闘争開始以来一貫して弾圧粉碎の弁護団長として全国学生とともに闘ってきた「正義の弁護士」であり、11月21日に「11・2弾圧の3学友奪還」を必ずかちとった上に、法大闘争勝利と全弾圧の粉碎をかけて全学連運動の最重要の課題として衆院選を闘おうということだ。

⑦衆院選から15年決戦に攻め上ろう!

最後に、今次衆院選決戦の高揚が、2015年の日本階級闘争

の大爆発と全国学生運動の大前進をかちとっていく突破口となり、「新自由主義打倒ー労働者権力樹立」のプロレタリア革命を決定的に引き寄せていくということだ。今こそ安倍にとどめを！ 法大闘争～沖大自治会再建～京大・東北大決戦と闘い抜いてきた全学連＝全国学生運動の底力を見せつけよう！

※「鈴木たつおとともに歩む会」→<http://suzutatsu.main.jp/>

■「11/19法大包围デモ」をうち抜く！

11月19日、法政大学文化連盟・全学連は「3学友奪還！ 安倍打倒！ 京大生と団結しよう！」を掲げて意気高く法大包围デモを行いました。安倍が絶望的な衆院解散・総選挙に追いつめられる中で、全学連の闘いへの全社会的な期待はいつそう高まり、報道陣も取材にかけつけました。

デモに先立ってマイクを握った斎藤郁真全学連委員長は、「京大生の闘いは、自分たちの実力でこの社会のペテンー大学が戦争に協力し、公安警察と一体となって私たちの闘いを抑圧していることーを暴露したからこそ、これほどまでの社会的注目を浴びた」と喝破。「私たち学生が団結した時に、多くの人びとが闘いに立ちあがる可能性を切り開けることを京大の闘いが証明した。日本で最も弾圧されてきた法大からこのふざけた現実を暴露して学生が立ちあがれば、必ず情勢は変わる」「京大同学会に続く闘いを、法大からもつくり出そう！」と渾身の訴えを行いました。

続いて首都圏の学生が、武田君を処分し警察に売り渡した法大当局と公安警察に対し「武田君・獄中3学生の仲間としてこんなことは絶対に許さない！」と怒りのほとばしるアピール。この間、「京大公安スパイ事件」に最も打撃を受け、追いつめられているのが島田雅彦(国際文化学部教授)をはじめとした法大の御用学者です。この日は、メディアに登場して「学生運動は孤立している」と絶叫した萩谷順(法学部教授)がこそこそ様子を見に来たものの、法大生の参加と注目、弾劾によって



すぐさま逃げ帰る無様な姿をさらしました。

九段校舎を直撃したデモ隊の明るさと「3人を今すぐ釈放しろ!」「公安警察を大学からたたき出すぞ!」「公安警察は今すぐ『離脱しろ!』!」「貧困につけ込んだ徴兵制を許さないぞ!」のスローガンに圧倒的な注目が寄せられ、多くのビラが沿道の学生・労働者に受け取られました。最後は山本一如文化連盟書記長の団結ガンバローで行動を締めくくりました。全学連は3人の学友を必ず奪還し、衆院選決戦勝利にむかって最先頭でこの11～12月を闘いぬきます! (首都圏学生・U)

■武田君「暴行」でっち上げ裁判うち抜く!

11月17日、法大文化連盟委員長・武田雄飛丸君の「暴行」でっち上げ弾圧裁判・第4回公判が東京地裁刑事第10部(田邊三保子裁判長)で開かれました。

本裁判は、安倍政権の改憲・戦争攻撃と対決し、キャンパスから戦争阻止・学生自治会再建をかちとる闘いの一環です。午後1時半に開廷。今回の公判では「検察側証人」として自称「被害者」の法大職員2名の尋問が行われました。

濱田裕嗣・通信教育部事務部通教事務課課長は、3名の「体制当番」の一員として、休憩時間の演説をカメラで盗撮していた人物です。法廷では、なぜその業務をするのかの理由も知らず、ただただ浅野広人・法大総務部庶務課長の指示したことをやっただけだと居直りました。プラカードを押し付けられたり、引っ張られたりするという「被害」を受けたと検察庁で供述しています。しかし、警察段階では、カメラが壊れたことについて取調べを受けただけであって処罰は求めていると証言しました。さらに、3回見たというビデオ映像が何種類あったのかも覚えていません。暴行は、検察の描いたストーリーによる完全なでっち上げであると明らかとなりました。

喜嶋康太・学生センター学生生活課長は、ハンディカメラで学生をつかまわし、置きビラの回収などを日常業務として行ってきた人物です。胸ぐらをつかんで引っ張られるという「被害」を受けたと検察庁で供述しています。法廷では、2回つかまれたと証言しましたが、調書には書かれていません。しかも、裁判前の検事の説明で、「法廷では事実以外のことについても自分はこう思うということを証言しろ」というレクチャーを受けていたことまで明らかになりました。

ふざけた証言内容に驚きの声や弾劾が叩きつけられるのは当然です。にも関わらず、裁判長は途中2名の学友に退廷命令を出し、法廷「秩序」の維持に必死です。さらに裁判所を揺るがず闘いを叩きつけよう! 次回公判は12月9日です。鈴木たつお弁護団長とともに闘おう! (首都圏学生・H)

【当面する行動方針】

●武田雄飛丸君「無期停学処分」撤回裁判・第8回弁論

12月17日(水) 13時10分～ 東京地裁705号法廷にて

●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第5回公判

12月9日(火) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

●武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第6回公判

12月25日(木) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

